

Adenoma-carcinoma sequence と *de novo* 癌のいずれが大腸癌発生のメインルートか？これは永遠のテーマであり、この解明には大腸Ⅱcの実態を明らかにすることが大前提と考える。現在、大腸Ⅱcはまれな病変とされ、学会などでも取り上げられることも少なく、Ⅱcの実態解明にはほど遠い状況にある。大腸Ⅱcがまれな要因には、発見困難であり見逃しの可能性があることは否定できない。近い将来には、人工知能(AI)による大腸Ⅱcの拾い上げ診断が容易となり、Ⅱcの実態解明にも近づくことが期待される。しかし、高い精度のAIシステム構築にはディープラーニングのためのⅡcの症例集積は必要であり、それらのⅡcも鮮明かつ綺麗な画像記録が条件となる。そのような記録のためにも、Ⅱcの発見から診断、そして撮影技術のノウハウを本特集から学んでいただきたい。

各症例は普通では見逃されてしまう怖さを秘めた病変ばかりである。「発見のポイント」を見ると、Ⅱc発見の条件には前処置が良好なことや鎮痙薬の使用、時間をかけた丁寧な観察が挙げられている。内視鏡観察において、白色光観察では淡い発赤(血管透見消失)、白斑、粘液付着、ひだの変化(不整、変形、notch、粘膜下隆起、ひだの動き、ひだのひきつれ)、粘膜の光沢(光の反射)の違いなど、またNBI観察ではbrownish areaやO-ring signなどに注意すること、内視鏡技術としては、インジゴカルミン撒布の習慣や、見逃しを防ぐための内視鏡反転、NT-tubeや先端フード使用によるひだ裏や屈曲部の観察、空気量の増減、体位変換、結腸膨起の残留液吸引などが挙げられている。「若手医師へのメッセージ」では、多くの症例を「見て学ぶ」「診断なくして治療なし」「AIに負けない診断能を高める」「Ⅱcを見逃しているという意識」「Ⅱcの特徴の理解」「Ⅱc発見の熱意、気概、集中力」など、Ⅱc発見のための心構えが述べられている。

見逃していたら1年後、この患者の命は？この怖さを実感させる症例ばかりである。このようなⅡcを見逃さないためにも、多くの症例を見て学ぶ、そしてⅡcを意識した集中力のある観察から実践でpureⅡcを1例見つける。それが診断学のスタートとなり一流のコロノスコピストへの道と考える。本特集がその一助になることを期待したい。

藤井隆広(藤井隆広クリニック)

## INTESTINE

Vol.25 No.2

©2021 年 7 月 20 日発行

定価 3,520 円(本体 3,200 円 + 税 10%)

●年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、書店または弊社までお問い合わせ下さい。

・ Published by Nihon Medical Center, Inc.

© 2021, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・ JCOPY 出版者著作権管理機構 委託出版物

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(☎ 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

編集 『INTESTINE』編集委員会

発行人 増永 和也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-64(協和ビル)

営業直通電話 (03) 3291-3901 (代) FAX (03) 3291-3904

e-mail info@nmckk.co.jp

編集直通電話 (03) 3291-3971 (代) FAX (03) 3291-3377

e-mail intestine@nmckk.co.jp

印刷所 シナノ印刷株式会社

広告申込所/株式会社 文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 電話 (03) 3814-8541